

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jim@geppou.asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 迄お送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

理化学研究所平成 15 年度 基礎科学特別研究員公募

3. 物理学、化学、生物科学、医科学、工学の各分野で、理化学研究所で実施可能な研究。

5. (1) 平成 15 (2003) 年 4 月 1 日

6. 平成 15 年 4 月 1 日現在 35 歳未満で、自然科学の博士号取得者又はこれと同等の能力を有すると認められる者。

※日本国に永住権を有さない外国人にあつては、上記に加え次の条件を満たす者。①応募日現在日本国に在住している者。②日本国の大学院博士課程を修了（見込を含む）し、博士号を取得（見込を含む）の者。

● 応募要項頒布：頒布開始は 4 月上旬予定。

応募要項の請求は、下記 FAX 又は E-mail へ①郵便番号、②住所、③氏名（漢字）、④氏名（カタカナ）を記入し、送信すること。※要項代は無料

8. 平成 14 年 5 月 31 日(金)必着

9. (2) 〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1

理化学研究所 総務部

人事第 2 課 基礎科学特別研究員担当

Tel: 048-467-9268 (直通)

Fax: 048-463-3687

E-mail: wakate@postman.riken.go.jp

11. 本件は当研究所予算の成立を前提としており、その事情により変更がありえる。

研究会・集案案内

天文学史国際会議「アジア・太平洋地域の天文 儀器と天文アーカイブ」のご案内

標記の国際会議が、下記の要領で開催されます。この会議は IAU Commission 41 (国際天文学連合、天文学史部会) と Inter-Union Commission for History of Astronomy (ICHA, 国際天文学連合と国際科学史連合による天文学史の共同部会) が呼びかける公式会議で、韓国国立天文台と韓国科学技術省の共催です。

- 日程：2002 年 7 月 2 日(火)～5 日(金)

- 場所：韓国・チェンジュ市

(ソウル市の南東 130km)

- 参加費：\$100 (5 月 1 日以前)、\$120 (以後)

：proceedings と excursion, banquet の費用を含む。

- SOC メンバー：Wayne Orchiston (アングロ・オーストラリア天文台)、Suzanne Debarbat (パリ天文台)、Il-Seong Nha (韓国・ナール天文博物館)、ほか。

- 会議の目的と内容：アジア、太平洋沿岸地域の歴史的天文観測装置・儀器および歴史的天文記録などに関して、個人や小グループによる比較的小規模なコレクション、研究について議論するのが目的です(大きな組織や国規模での天文儀器・天文アーカイブについては、来年シドニーでの IAU 総会で議論されることになっています)。招待講演、一般講演、ポスターセッション(英語)を設け、全て proceedings に収録する予定です。

- 講演のタイトル・アブストラクトの申し込み期限：2002 年 4 月 30 日

- ホームページ：参加申し込み、ホテル予約、交通などの詳細は下記の web-site で見る事が出来ます
<http://www.nhamuseum.org/conference2002>

- 問い合わせ先：インターネットを利用できない方で、参加申し込み書、アブストラクト記入要領などをご希望の方は、中村 士(国立天文台、tsuko@cc.nao.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

会務案内

【評議員会議事録】

日 時：2002 年 1 月 26 日(土)

11 時 00 分～16 時 15 分

場 所：国立天文台（三鷹） 大会議室

出席者：井上、太田、岡村、海部、小山、須藤、高橋、舞原、牧島、吉井、家、佐藤（修）、谷口、野本、長谷川、松田 以上 16 名

欠席者：加藤、柴田、千田、高原、福井、池内、石黒、木下、高津、小杉、佐藤（勝）、中村、林、渡部 以上 14 名

有効委任状提出者：千田、高原、石黒、高津、小杉、佐藤（勝）、林、渡部 以上 8 名

他に、理事会から田原理事長、郷田、大石、立松、松原、茂山理事、また、山岡天体発見賞選考委員長、蜂巢研究奨励賞選考委員長、及び、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、議長及び署名人を選出した

議長：小山勝二

署名人：岡村定矩、須藤 靖

【報 告】

1. 前回議事録の確認（資料 1）

郷田理事より前回（2001 年 10 月 5 日）の評議員会議事録が報告され、誤植を修正の上承認された。

2. 早川幸男基金援助者選考結果の報告（資料 2）

須藤評議員（選考委員長）が 2001 年度早川幸男基金の選考結果（1 年分）について総括報告があった。これに関連して、立松会計理事から、昨年 10 月の総会で出た意見（早川幸男基金の予算を増やして欲しい）もありフレキシブルな運用をしてほしいとの発言があった。これに対し、須藤委員長から、採択率は 60% 程度であり、意欲のある若手を採択するようにフレキシブルに運用しているとの回答があった。

3. その他

(1) 早川幸男基金への寄付について

郷田理事より、早川幸男基金に対し佐藤明達氏より多額の寄付があったことが報告された。「若手研究者の育成という観点から早川基金に」寄付をなさるとの佐藤氏の意向が紹介された。

(2) 今後の年会予定等について

郷田理事より、2002 年春季年会のスケジュールや公開講演会についての報告、及び 2002 年秋季年会から 2005 年秋季年会までの年会会場等についての報告があった。

【議 題】

1. 2001 年度天体発見賞、天体発見功労賞、天文功労賞について（資料 3）

山岡天体発見賞選考委員長から 2001 年度天体発見賞、天体発見功労賞及び天文功労賞候補者の選考結果の報告があった。天体発見賞候補 1 件についてはプロの研究者による発見であったが当該候補者からの受賞は辞退したいとの意見が紹介され、その意志を尊重して授賞者とはしないこととした。発見賞の細則には受賞者の資格に何の区別もないが、プロの発見を今後天体発見賞の対象とするかどうかについては、細則の改定も含め、天体発見賞選考委員会でじっくり検討してもらうこととした。その他意見交換を行い、それぞれ下記のように満場一致で決定した。

◎ 天体発見賞

板垣公一氏：超新星 2001bq 及び超新星 2001gd の発見

長谷田勝美氏：新星さそり座 V1178 の発見

中村祐二氏：新星はくちょう座 V2274 の発見

多胡昭彦氏：新星はくちょう座 V2275 の発見

BATTeRS プロジェクト：周期彗星 P/2001 W2 (BATTERS) の発見

◎ 天体発見功労賞

畑山和也氏：新星はくちょう座 V2275 の独立発見

◎ 天文功労賞

（長期に亘る功績）

成見博秋氏：変光星の目視測光 25 万点天体

（短期的な功績）

薄 謙一氏：1998 年ボン・ウィネッケ流星群の活動を検出

大島誠人氏：2001 年のや座 WZ の増光を検出

村岡健治氏：彗星 P/2001 X3 を 11D/Tempel-Swift と同定

2. 2001 年度研究奨励賞について（資料 3）

2001 年度日本天文学会研究奨励賞候補者の選考結果を蜂巢選考委員長が報告した。意見交換の結果、選考委員会の推薦どおり満場一致で下記のように決定した。

受賞者名：児玉忠恭氏（東京大学大学院理学系研究科天文学専攻・助手）

研究テーマ：銀河団の形成と進化についての研究

3. 2001 年度林忠四郎賞及び欧文報告論文賞について（資料 3）

2001 年度林忠四郎賞及び欧文報告論文賞の選考結果について尾崎選考委員長の代理として海部評議員（選考委員）が報告した。これについて意見交換を行い、選考委員会の推薦の通り下記のように決定した。

◎ 林忠四郎賞

受賞者名：柴田一成氏（京都大学大学院理学研究科附属天文台教授）

研究表題：宇宙ジェット・フレアにおける基礎電
磁流体機構の解明

◎日本天文学会欧文報告論文賞

受賞論文名：First Results of a CO Survey of the
Large Magellanic Cloud with NAN-
TEN: Giant Molecular Clouds as For-
mation Sites of Populous Clusters,
PASJ, Vol.51, pp745-749 (1999)

著者：Y. Fukui 他 23 名

その後、推薦数が極めて少ないという問題点を海部
評議員が提示し、過去 5 年間の PASJ に発表された論
文の引用数を調べて欲しいとの理事会への要望が紹介
され、意見交換の後、過去の議論も含めて選考方法に
ついて理事会に検討を依頼することとした。特に論文
賞について、推薦書式の簡素化、推薦に基づくもの
だけでなく引用数に基づく上位論文も検討対象とす
ることについて意見交換を行った。

4. 2001 年度事業報告案について (資料 4)

2001 年度事業報告案を郷田理事が説明し、同報告
案は原案通り承認された。

5. 2001 年度収支決算報告案について (資料 5)

2001 年度収支決算報告案を松原理事が説明し、質
疑応答の後、同報告案は原案通り承認された。

6. 2001 年度監査報告について (資料 6)

2002 年 1 月 11 日に実施された監査の結果、上記事
業報告案及び収支決算報告案が正当であると認めら
れたことを監事の代理として郷田理事が報告した。

7. 一般会計財政改革案について (資料 7)

天文学会の一般会計財政改革に関する検討結果を松
原理事が説明した。主な提案は、2 つであった。

- 1) 非会員の年会参加者が全体の約 2 割近い (特に学
生の割合が高い) ことを踏まえ、非会員の講演登
録料を見直す (これまで 1 講演分は無料であった
講演登録料を 5000 円に、追加講演登録料を 4000
円に改訂する) ことによって、非会員のまま年会
に参加するよりも会員になるほうが有利となるこ
を示して会員数が増えるように誘導する。
- 2) 正会員 (学生) の会員期間を本人に自己申告して
もらい、期限がきても特段の連絡がない場合は自
動的に退会処理を行う。これを実施するメリット
は、現在行っている卒業後の学生への会費請求や
郵便物の送付が不要になること、及び、会費の自
動引き落としに定易くなることである。特に学
生に関わる提案でもあるので、今後春季総会など
で説明を行って理解を求めると共に、天体物理若

手の会からの意見も聞いてより良い実行案とする
こと、また、学生が会員になった場合の義務と権
利を理解していただくことを確認した。

一方、評議員総数を 30 名から 20 名にすることは
是非について議論を行った結果、削減する方向でさら
に理事会に検討を依頼することとした。

また、長期的な観点から、学会の中における学生会
員の位置付け (受益者なのか将来への投資すべき対
象なのか)、会費についても検討していくことを理事
会に要請することとした。

8. その他

(1) 会費未納者の除名について (資料 8)

2000 年度以降の会費未納者を対象とした除名者
リストを郷田理事が紹介し、除名が承認された。

(2) 年会実行委員会からの提案について (資料 9)

茂山理事から、財政改革の一環として月報に掲載
する年会プログラムのページ数削減案と予稿集のペ
ージ数削減案の提案があり、満場一致で賛同するこ
ととした。

また、2002 年秋季年会から企画セッションにお
いてコンピーナー制を試行する提案があった。コン
ピーナーにはセッションにおける口頭発表とポスター
発表の選択、レビュー的講演の選定、発表時間の
割当、座長の決定などの権限を与えるとするもので
ある。これについて議論を行い、メリハリをつけた
講演にするのは良いことであるという意見、コンピ
ーナー制を成功に導くための方策に関する質問、他
学会における例の紹介などがあったのち、コンピ
ーナー制試行を支持することとなった。

(3) 総会の運営方法について (資料 10)

天文学会総会の運営方法について理事会で検討し
た結果を郷田理事が下記のように報告した。年会
プログラム構成を工夫し、全てのセッションの予定終
了時刻を総会開始予定時刻の少なくとも 30 分前と
し、20 分前から総会出席正会員の受付 (確認) 作
業を開始して予定時刻になったら受付を終了して有
効出席者数を確定させる。受け付けられた正会員に
は札を渡し、賛否はその札を上げることににより行
い、準会員や遅れて入場した正会員のオブザーバー参
加を可能にする。(オブザーバーには議決権は与え
ない)。また、途中退席者には会場出口で札を返却
してもらい、議決を採る際の出席者数から除外す
る。民法第 62 条及び第 64 条により議決の対象となる議
案は事前に全社員 (正会員) に提示しなければならないこと、また、民法第 65 条により表決権に関
して全社員は平等であることから、総会時の修正提
案は受け付けることができない。また、「議長」への
委任は定款第 40 条によると理事長への委任となる

ため、これまで通り無効と扱い、個人名を陽に出した委任状のみ有効と扱う。

これについて意見交換を行った。現状では総会開始以降も入場して来る人が多いという問題はあるが、「遅刻したら議決権を与えない」という厳しい措置は取らずにできるだけ総会開始時刻までに入場するよう呼びかけるなど努力し、実際の運用は理事会に一任することとし、2002年春季総会から実施することを決定した。

(4) 次回の評議員会の予定

郷田理事から説明があり、2002年3月29日(金)に次回の評議員会を開催することを確認した。

(5) 会員名簿について

家評議員から「毎年会員名簿を発行して欲しい」との意見が出され、理事会で可能かどうか検討することとした。

2002年2月14日

議長 小山勝二 印
署名人 岡村定矩 印
署名人 須藤 靖 印

そこで、より実効的に会員数、特に正会員(学生)数の増加を促すために、以下のように会員/非会員での講演登録料の格差を広げることを提案します。

現状：

	会員	非会員
参加費(基本登録料)	3000円	5000円
講演登録料(一講演のみ)	0円	0円
追加講演登録料	3000円	3000円

改正案：

	会員	非会員
参加費(基本登録料)	3000円	5000円
講演登録料(一講演のみ)	0円	5000円
追加講演登録料	3000円	4000円

《案2》正会員(学生)の会員期間の自己申告について

学生については、「卒業までの期限付き会員である」とします。具体的には：

- 学生は入会時に必ず、いつまで会員でいるのか、を自己申告する。
- 既に正会員の学生についても、会員期間を申告。
- 会員期間の期限までに本人から連絡がない場合は、期限時で、自動的に退会処理を行う。

これにより、(現状では行っている)卒業後の学生への会費請求や不要な郵便物の送付などの事務処理を行わずに済むようになります。さらに、学生にとっても卒業までの期限付き会員であることで入会しやすくなるし、また会費の自動引き落としにも応じ易くなるものと期待されます。

《補足説明》

1. 天文学会財政の動向

1997年度よりこれまでの一般会計の収支の動向を見ますと、これまでのところ収入・支出ともに増大傾向にあります。特に1998年度から2000年度にかけては支出が収入をかなり上回り、繰越金が毎年500万ほど減少しております。この原因を整理しますと：

- 1) 1999～2000年度はPASJ掲載料の半額キャンペーンの影響、
- 2) 管理費支出が年々増大、
- 3) 刊行物事業の収入の減少・支出の増大、
- 4) 一方会費収入は、3300万円ではほぼ横ばい傾向であること、

一般会計財政改革案について

【2002年春季総会の討議資料】

日本天文学会の一般会計の収支は、2001年度は(総会で承認いただければ)幸い黒字決算となりましたが、ここ5～6年にわたって平均的には赤字傾向が続いております。このため年度毎の繰越金が徐々に減りつつあり、早急に対策が必要であると考えております。理事会では様々な角度から財政改革の具体案を検討してきました。来る2002年度春の総会において、以下のような具体案について議論する予定です。会員の皆様のご意見を、総会にて(あるいはメールなどで)ぜひ伺いたいと思いますので、よろしくご検討下さい。

平成14年3月 会計理事

《案1》年会登録料の改訂案

年会は会員の研究成果の発表の重要な機会です。この年に、現状では約二割(約100名)の方が、非会員のまま参加し講演をされております。会費収入で成り立っている学会にとって、これは大きな痛手とも言えなくもありません。また、そもそも非会員での参加は、会員になる前に天文学会の諸活動の様子を知っていたくために導入されたはずのもので、いつまでも非会員のままで年会発表を行うのは本来の趣旨にそぐわないものです。

5) 預金や貸付信託(現在一般会計分は3300万円ほど)の利子が年々減少したこと、
などが挙げられます。学会財政が主に会員の会費収入で成り立っている以上、会員数が目立って増えていないことは深刻な問題であると言えます。

2. その他の財政改革案

前述の提案以外にも、理事会では、以下のような財政改革の具体案を実施あるいは検討しております。

1) 入会・退会の手続きの電子化の検討【入会・退会の簡略化】

入会・退会をホームページから入力できるように、準備中です。

2) 事務の省力化・管理費の節約

例えば、理事会・評議員会の開催通知を電子メール化しました。

3) PASJ・月報の特集号発行の企画

4) PASJ紙版の必要性の検討

電子版の地位を高め、紙版発行数を減らすことができないか、検討中です。

5) 年会予稿集・月報掲載年会プログラムのページ数削減

他にも何か名案をお持ちの方がいましたら、ぜひ会計理事までお知らせ下さい。

訂正

天文月報第95巻3号166頁に掲載の退会準会員の名簿の方々のうち、磯部重光様・平一弘様の2名の方々のお名前を削除致します。

●学会だより●

◎2002年度会費より会費は前納制となり、それに伴って納入時期に応じて延滞金を頂くことになりました。3月末日までのお払い込みは延滞金は加算されませんが4月1日～9月30日までは1,000円、10月1日以降は2,000円です。

◎口座自動振替のお勧め

天文学会では年会費の期限内納入、事務の省力化のため、預金口座(金融機関か郵便局)よりの自動振替を奨励しております。ご希望の方は学会事務所へ電話、FAX、メールにてご連絡くだされば、預金口座振替依頼書をお送り致します。

◎会費納入時、各種連絡の時は必ず会員番号を明記して下さい。

◎次年度より会員種別の変更を希望する方は10月末日までに届けを出して下さい。(用紙は学会事務所にありますので、ご連絡下さい。)

◎住所、所属、刊行物送付先等変更のある方は葉書、FAX、メール等でご連絡下さい。尚、変更内容の内刊行物送付先に変更のある方は、毎月10日までに受付けた分は新住所へお送りします。11日以降の分は翌月から新住所への発送となります。

◎退会を希望する方は、必ず葉書、FAX、メール等でご連絡下さい。電話でのご連絡は受け付けません。

◎退会時の会費の未納分がある場合はお支払いの義務は免責とはなりませんので、未納分をご送金下さい。

連絡先: 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内 社団法人日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 FAX: 0422-31-5487
e-mail: jimu@asj.or.jp

編集委員 上野宗孝(編集長)、伊藤孝士、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、
小野智子、斎藤芳隆、土橋一仁、内藤統也、藤田 裕

平成14年3月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359(事務室) / 0422-31-5488(月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: jimu@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子